握手 (2)

井上ひさし

(爪が潰れたルロイ修道士の人さし指を見た「わたし」は、戦争中、ルロイ修道士が、日本人の監督官に木づちで左の人さし指をたたき潰された、といううわさを思い出しました。)

「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。※交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至っては、もうなんて言っていいか。申し訳ありません。」

①ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右の人さし指をぴんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こら。」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、②右の人さし指をぴんと立てるのが癖だった。

「総理大臣のようなことを言ってはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言ったりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

「わかりました。」

わたしは右の親指をぴんと立てた。これもルロイ修道士の癖で、彼は、「わかった。」「よし。」「最高だ。」と言う代わりに、③右の親指をぴんと立てる。そのことも思い出したのだ。

※交換船〜…戦争が始まった後、日本側の都合で交換船が中止になったために、ルロイ修道士はカナダに帰れなくなった、といううわさがあった。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「ルロイ修道士は……右の人さし指をぴんと立てた」とあるが、ルロイ修道士がこのようなしぐさをした理由となるように、次の文の（　　）に当てはまる言葉を、解答欄（かいとうらん）に合うように本文中から書きぬきなさい。

（**A**）しているような「わたし」のものの言い方が（**B**）であると注意しようと思ったから。

A　□□□□□□
B　□□

(2)　――線②「右の人さし指をぴんと立てる」とあるが、ルロイ修道士のこのしぐさの意味するものを全て選びなさい。

ア「こら。」　**イ**「よし。」　**ウ**「わかった。」
エ「よく聞きなさい。」　**オ**「最高だ。」

〔　　　〕

(3)　――線③「右の親指をぴんと立てる」とあるが、ルロイ修道士のこのしぐさの意味するものを全て選びなさい。

ア「こら。」　**イ**「よし。」　**ウ**「わかった。」
エ「よく聞きなさい。」　**オ**「最高だ。」

〔　　　〕

(4)　発言から読み取れるルロイ修道士の考えとして、最も適当なものを選びなさい。

ア　何かによって人を区別して考えるのではなく、一人一人の人間として捉（とら）えるべきである。
イ　自らの立場を理解したうえで、国ごとに異なる考え方を尊重した発言をするべきである。
ウ　それぞれの国の違（ちが）いを乗り越（こ）えていくためには、傲慢さを捨てて謙虚（けんきょ）になるべきである。

〔　　　〕